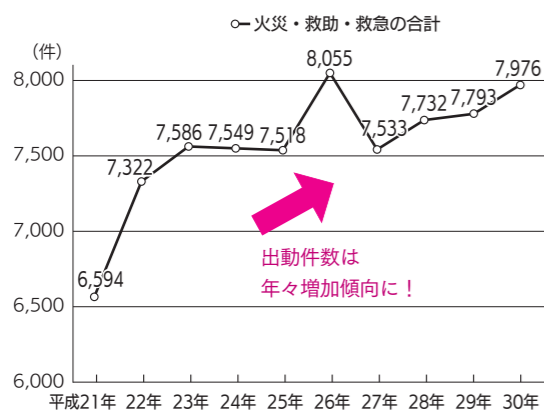


火災への対応力アップ
より強い消防体制へ

消防出動件数の推移

深谷市消防本部管内（深谷市・寄居町合計）



平成30年消防出動件数

火災 / 73件
救急 / 7,727件
救助 / 176件

ご協力ください！！
119番通報の適正利用

深谷市消防本部では、8台の救急車を通常配備して24時間体制で対応していますが、年々出動件数は増加しています。救急出動の中には、緊急を要しない場合もあり、件数増加の大きな原因となっております。

緊急の場合は迷わず119番通報し、判断に迷う場合、大人や子どもの急な病気やけがで受診の判断に迷う時は『#7119』へご連絡ください（詳しくは広報ふかや18ページをご覧ください）。



**1分1秒でも早く現場へ
進化する消防体制**

消防車や救急車の到着を待つ人にとって、その時間はとても長く感じるものです。そして、現場に駆けつける消防職員は最も近くでそうした気持ちに触れてきています。そんな経験を重ねているからこそ1分、1秒でも駆けつけるまでの時間を短縮するため、普段からあらゆる想定を踏まえた訓練を行い、いつでも出動できる体制を整えています。

しかし、深谷市消防本部管内では、救急を中心に出動件数が上昇傾向にあります。時には、火災などでの出動と救急要請が同時に発生することも想定されますが、どのような場合でも適切に対応していかなければなりません。

そこで、4月から車両の運用などを見直し、増加する救急需要に対応しながらも、火災への対応も同時に行うことのできる体制を本格導入します。

次ページでは、4月からさらに強化する消防の体制が、いざという時にどのように力を発揮するのか紹介します。

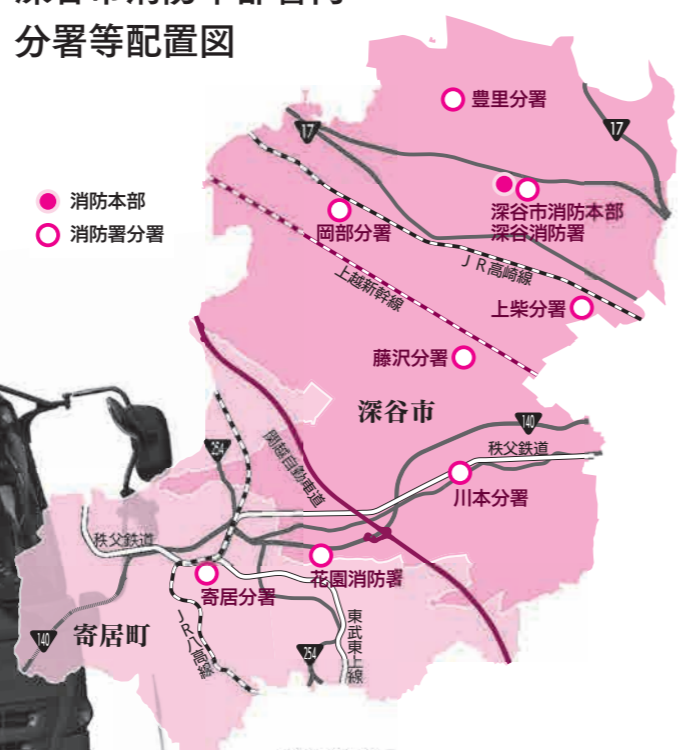
進化する深谷の消防力！
火災への対応力アップ
より強い消防体制へ

深谷式新消防戦術
『FAST ATTACK PRIDE III』を本格導入

木造建築で火災が発生すると一般的におよそ『2分』経過すると初期消火が困難になるといわれます。また、『7分』を超えると隣接する建物に延焼する確率は急激に高まり、さらなる被害を生み出すといわれ、火災現場では1分1秒がその被害を左右します。

今月の特集では、深谷市消防本部が取り組む新たな消防力向上の取り組みを紹介します。

深谷市消防本部管内
分署等配置図



消防業務の広域化に伴い、平成18年から深谷市消防本部は深谷市と寄居町の両市町を管轄しています。

24時間365日
市民の安全・安心を守る
深谷市消防本部



「119番です。火事ですか？救急ですか？」通報音と同時にピンツと張り詰める指令センター内の空気――

通報が入ると的確に状況を聞き取った後、数分のうちに車両がサイレンの音とともに出動していきます。平成30年、深谷市消防本部管内では1万3068件の通報が

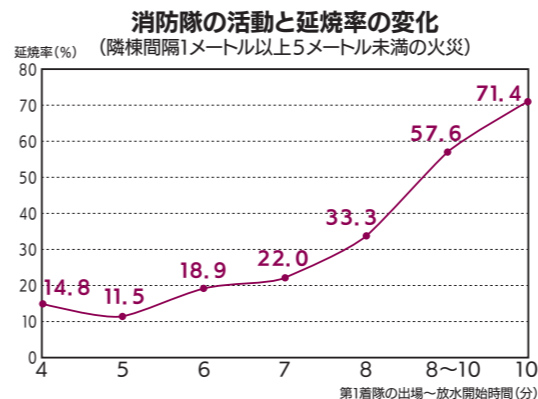
ありました。そのうち火災・救急・救助合わせて出動件数は7976件で、毎日平均20件以上出動しています。

関越自動車道や数多くの鉄道路線を擁する深谷市消防本部管内では、市民の安全・安心を守るため221人の消防職員が日々奮闘しています。

消防車両と装備更新で実現 放水開始までの時間短縮

延焼を防ぐ『390秒』
4月から新しい出動体制に

建物火災において、被害拡大を防ぐ、重要な取り組みである延焼防止。消防庁の指針によると、建物が隣接した市街地での火災では、出動から現場到着、放水までを『6分30秒以内』（390秒）に行うことが有効であるとされています。火災はいつでもどこで発生するか予測することができないため、現場までの移動時間の短縮には限界があります。そこで、今回の取り組みは火災現場に到着してから放水を開始するまでの時間短縮に着目しました。平成30年10月の試験導入後、3回の出動がありました。消防車が火災現場に着してから、放水までにかかる時間は過去の平均時間に比べて大きく短縮することができています。これを実現したのは、順次更新してきた最新の装備や車両でした。



消防車が現場に到着してから 放水開始までの平均時間

平成29年度までの平均時間 ▶▶▶ 約2分
新しい出動体制運用後
試験運用期間 ▶▶▶ 43秒
(平成30年10月から試験運用開始・計3件)

新しい出動体制の『要』 消防車両・設備の更新

従来の体制では先着隊は『現場到着↓水利確保↓放水』という流れで活動しますが、新しい体制では『現場到着↓放水』となり、放水までの手順が減少しました。

現在、深谷市消防本部が更新するポンプ車には『CAFS』と呼ばれる放水装置と『電動ホースカー』が備え付けられています。『CAFS』は、水と空気と特殊な薬剤を混合して放水する装備で、車両に積載している水だけで15分以上放水できるため、延焼防止に大きく役立ちます。また、電動ホースカーは、少ない人員で素早く消火栓に停車した消防車から火災現場近くの消防車両にホースを延長することができます。



▲『電動ホースカー』を使用する様子。通常は人数がかかるホースの延長作業を少人数で行うことが可能になります。

効率的な運用で 火災に左右されない救急を

さらに安定した

消防体制の実現へ

そして、この取り組みの効果は消火活動だけでなくとどまらず、救急体制も含めた消防力全体の強化にもつながっています。

4月から本格的に導入する出動体制では、最新の車両や機器の導入により少人数で効果的に消火活

動をすることができるようになるため、火災出動があっても、消防分署に救急出動することのできる人員が他の救急出動に備えて待機できるようになりました(下表参照)。

『救急』を中心に出勤件数は増加していくことが予想されます。しかし、人の生命や財産に直結する業務を行う消防では、対応に切

建物火災時の消防分署体制比較

		新消防体制導入前	新消防体制導入後
通常の建物火災時	出動人員	5人	3人
	分署に待機する人員	0人	2~3人

▲新しい消防体制の導入前後の建物火災発生時の出動人員を比較した表です。新消防体制導入後は、分署の待機人員が増え、分署間で連携しながら救急隊を編成することができます。

れ目をつくることはできません。今後このような工夫を重ね、深谷市消防本部では、より安定した消防体制を整えていきます。

火災への対応力アップ より強い消防体制へ

耐震化工事が進んでいます 『市内消防分署』

地域の消防活動の拠点となる消防分署の耐震化が進んでいます。現在川本分署および藤沢分署を建設中で8月頃の運用開始を目指しています。外壁のレンガタイルが特徴で非常用発電機や地震連動開放シャッターなどの機能を備えています。

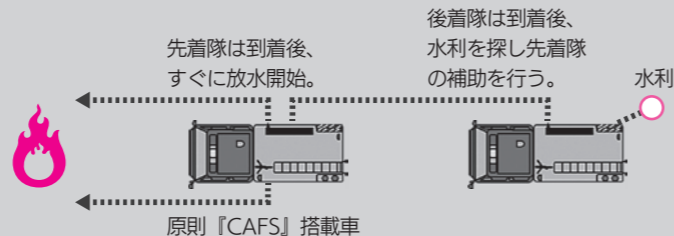
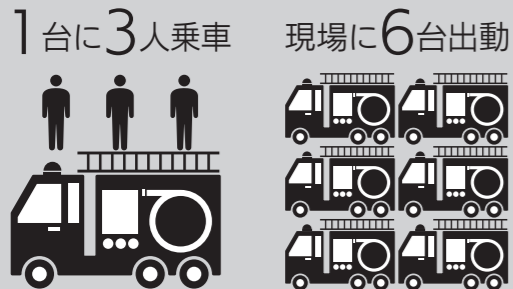
また、岡部分署および豊里分署は2019年度から建築工事を開始し、2020年度中の運用を目指しています。

現在建設中の消防分署イメージ図



▲現在建設中の川本分署(写真上)および藤沢分署(写真下)のイメージ図。

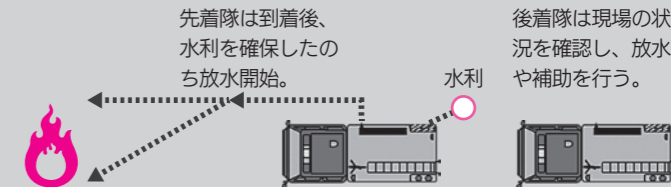
4月以降の消防出動体制 (FAST ATTACK PRIDE III)



現場に到着次第、積載している水(CAFS)を使用して消火を開始するため従来よりも素早く放水できるようになった。また、順次設備更新を行ったため、4月から市内全域で安定した出動体制を構築することができた。

※深谷・花園消防署に設立した『機動消火中隊』と分署消防車両が現場で合流してペア活動することで、さらに効果的な活動を実現しました。

従来の消防出動体制



水利確保と放水の両方を行うため各車両とも最大定員5人が乗車して出動し、現場で分担しながら放水を始めます。人手が必要な火災現場に人員をかけることができる反面、出動後の分署が手薄になり、他の救急要請へ最寄りの署で対応できなくなる可能性がある。